



## 子どもにまつわるお作法 1

子どもたちは、小学校に入学すると今までとは規模が異なる大きな集団に入り生活することになります。集団が大きくなれば、そこに集まる子どもたちの個性も様々です。

その集団の中で、楽しいことも嫌なことも両方経験していきます。わが子が様々な子どもたちと一緒に生活する中で、親御さんとしては、心穏やかでいられないことも時として起こります。

今日は、そういった時どうしたらよいか等、親御さんに知っておいていただきたい小学生の「親としてのお作法」について、話してみたいと思います。

### お作法① 担任教諭についてのネガティブな思いを子どもの前で口にしない

まずはじめは、担任不信への対応です。子どもから様々な話を聞いていると、担任の学級経営について疑問を感じることもあると思います。子どもの話を聞いて、「えっ、そんなこと言ったの。」なんて、その場で話してしまったり、確実に子どもは担任への信頼をなくし、担任からは学ばなくなります。それはそうです。担任より、自分の親御さんの方が大切だし信頼しているのですから。

#### そんな時は↓

**担任に、担任に話しづらい時は、管理職にお話してください。**単なる誤解だったということや担任の考えをご理解いただけることも多いです。また、保護者の皆さんのお話が、確かにそうだなという時は、もちろん僕が指導し、改善に努めます。

### お作法② 大人ポジションを崩さない

次は、自分の子どもが学校で嫌な思いをしたり、不平不満を言ったりしたときの対応です。親として子どもが嫌な思いをした等の話を聞くと、子どもの負の感情に自分の感情が飲み込まれてしまうことがあります。子どもと同じような思いになって、同化してしまうのです。でも、これはダメです。子どもと同じになってしまったり、子どもの心を受け止めて寄り添うことができないからです。

#### そんな時は↓

まずは、**だいたい6秒間くらい、努めて深く呼吸しましょう。**少し落ち着くと思います。次に、**しっかりと子どもの話を聞きましょう。悲しい気持ち、つらい気持ちにしっかりと寄り添って受け止めてください。**「そう、それは悲しかったねえ。う

んうん。」「でも、大丈夫だよ。」と安心させてあげてください。あくまでも冷静に、大人として、子どもを安心させること、問題に対してどうしていくかを一緒に考える存在であることを崩さないようにしたいです。そうでないと、子どもはもっと心配になり、不安になります。また、問題を抱えているのは子どもであり、自分ではないということを意識して、「あなたはどうしたい?」「例えば〇〇の方法や△△してみるとかできると思うけど、どうする?」等、子どもに考えさせることや自己選択・自己決定させることも意識してみてください。

### 大人ポジション

**いつでも、子どもより大きく、子どもより強く、子どもより賢く、そして、優しい存在であること**

### お作法③ 事実をきちんと見極める

お作法②の続きになります。泣いて帰ってきたわが子、聞けば聞くほど関わった相手の子がひどい、これはいじめだと感じました。当然、「学校、どうなってるの。先生は分かっているの?!」となりますよね。でも、改めて考えてみましょう。

お子さんが話していることすべてが本当でしょうか。友だち同士で何か問題が起こった時、子どもって自分の思いを通そうとして嘘をつくことがあります。自分がやってしまった悪いことは、過小評価してしゃべったり、その部分は話さなかったりすることもよくあります。教師生活の中で見てきたごくごく普通のことです。お子さんを疑ってかかってほしいと伝えたいのではありません。

「そうだったんだね。それは、くやしかったねえ。」でよいのです。けれど、子ども任せにしておくと、やっぱり心配だとなったら、その先は、「事実」はどうかをはっきりさせなければ進められないのです。

#### そんな時は↓

**担任に、お子さんの状況とどのように話しているのかをお伝えください。**学校は必ず、どのような状況だったのか、どういう経緯だったかを、本人たちから聞き取ることはもちろんのこと、周りにいた子ども等からも話を聞いていきます。(どうしても事実関係が明確にならない場合は、十分指導することができないこともあります。学校が行うのは捜査ではなく、指導のための確認だからです。そのこともご理解いただければ幸いです。)その結果から、必要な指導を行い、お伝えする必要があると判断した場合には、同時に双方のご家庭にもご連絡いたします。 次回につづく・・・

## ①子どもは大切な存在だ

お作法④ 自分の子どもはもちろんのこと他の子どもも大切な存在だと心する

お作法③の続きです。事実関係を確認したら、やっぱり自分の子がちょっかいを出されたり、嫌なことを言われたり、暴力を受けていたりしたら、心穏やかではられません。それはそうですよね。けれど忘れて欲しくないのは、親としての子どもへの願いは何でしょうか。「健やかに育てほしい」や「幸せな人生を送ってほしい」なのではないでしょうか。

子どもたちは、小学校に入学すると幼稚園・保育園時代よりもはるかに多くの他の子どもたちと接することになります。そして、子どもたちは、子ども同士ぶつかったり、意地悪したり、されたりしながら大きくなっていきます。親としては、やる方にもやられる方にもなって欲しくないですよね。

多様性の時代と言われています。様々な考えを互いに尊重し合って、うまくやっていくことを大切にできる世界です。だから、昔とは違って、ご家庭の考え方も千差万別です。そういった様々な価値観の中で育った子どもたちも当然のこと、様々な子どもが存在しています。

さて、どのご家庭も、「自分の子どもが、嫌な思いをせずに学校に通ってほしい。」「楽しく毎日を過ごしてほしい。」「健やかに育てほしい」とお考えになっていると思います。けれど、学校という様々な子どもがいる社会の中で、いつも幸せで何事もトラブルがない、友だち関係の中で嫌な思いをしない、なんていうことはあり得るでしょうか。僕は、それは難しいと考えています。

実は、親や教職員、地域の人に守られた環境の中で、そういった他者との関係性の問題を、手助けしてもらいながら自分で解決していくことは、子どもたちにとって、欠くことのできない経験です。「学校」という場所がもつ機能として、本当に大切なもの、大事にされなければならないものの一つなのです。

なぜなら、子どもが社会という大海原に漕ぎ出したとき、他者とのトラブルに対する耐性やどのように対処するかを学べていなかったら、そのことに躓き乗り越えられない心配があるからです。

今日は、小学校にお子さんを通わせている保護者のみなさんに分かっておいていただきたい、「**保護者としてのお作法**」について話したいと思います。お作法と呼ぶのは、鶴嶺の保護者みんなで大切にしたい事柄だからです。多様性の時代ではあっても、「うんうん、大事にしたいね。」と共通に理解していただきたい内容なのです。